

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、2学期の始めに個人の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

本調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語・算数に限られております。また、調査の結果は児童の学力の一部に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが本来のねらいであると考えています。

分析から明らかとなった成果と課題をもとに、対象となった6年生のみならず、全学年においてよりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、課題に応じた指導方法の工夫改善を一層図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析をもとに、生活習慣や家庭学習の指針の参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

(1) 国語 全体の正答率は全国値とほぼ同じ。

(2) 国語《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと 全国値を下回っている。

■集めた材料を話す目的や意図に応じて、結び付けて関係を明確にすることに課題がある。

■複数の情報を整理しながら、選択肢の正誤を判断することに課題がある。

書くこと 全国値を下回っている。

■例文を参考に、書く目的や意図に応じて、適切な言葉を選ぶことはできている。

■資料や会話文から引用して解答する問題では、問題の資料がどのようにつながっているのか関係を見出すことに課題がある。また、全ての回答条件を満たさない解答が多く見られた。

■記述式の設問は、無回答も多く見られた。

読むこと 全国値をやや下回っている。

■「ぶあいそう」などの言葉の意味を正しく捉えられていない。

■話し合いの論点を正しく読み取ることができている。

■物語を読んで「心に残ったところやその理由」を書く設問では、回答条件を満たさない解答が見られた。

言葉の特徴や使い方に関する事項 全国値をやや上回っている。

■「文の中における主語と述語との関係を捉える」という設問では、述語と適切な係り受けする主語を見つけることに課題がある。

■「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」の正答率は、全国値を上回っている問題もあった。

(3) 国語の今後の改善点

話すこと・聞くこと

- 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することの課題について
 - ・ 解答に必要な情報を、どの場面で優先して引き出すかを検討し、必要な情報を整理する学習活動を設定する。その優先順位が分からない場合は、グループ活動や学級全体でその悩みを共有し解決策を見出す場面を設定する。
 - ・ 集めた情報の材料を話す目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けたりして、関係を明確にする学習活動を設定する。
 - ・ 自分が伝えたいことを明確にするとともに、聞き手の求めていることに応じて、集めた材料をどのように整理すればよいかを考える場面を設定する。

書くこと

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にするための課題について
 - ・ 複数の語句を丸で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして、情報を整理する学習活動を取り入れる。
 - ・ 情報を整理する中で足りない情報に気づき、再度取材を行ったり、必要に応じて別の立場から情報収集をしたりする必要性にも気づかせる。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することの課題について
 - ・ 目的や意図を確認して、伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものになっているかどうかを確認したりする。また書き表し方の工夫について話し合う場面を設定する。
 - ・ 集めた情報の事実と自分の意見に相違がある場合は、伝えたい目的や意図を確認するために、構成メモを振り返り、伝えたいことを表せているかを確認させる。
 - ・ 児童が書いた文章を自身で読み返したり、友達と確かめ合ったりして、書き表し方を見直す活動に取り組ませる。

(4) 算数 全体の正答率は、全国値とほぼ同じ。

(5) 算数《各領域における成果と課題》

数と計算 全国値をやや上回る。

- 問題から適切な式を選択する問題が全国値を下回ったが、記述式や短答式の解答では正答率が高かった。
- 問題場面を想像しながら問題に取り組むことに課題がみられる。

図形 全国値をやや下回る。

- 記述式の問題では、全国の正答率を大きく上回った。見取り図を考える問題や、球が入る立方体の体積を求める問題の正答率は全国値を下回った。基本的な図形の構成は理解できているが、空間を認識する力に課題がみられる。

変化と関係 全国値を下回る。

- この領域では、速さについて出題されていた。速さの問題を苦手とする傾向がある。

データの活用 全国値をやや上回る。

- 記述式の問題以外は平均を上回っており、データを読み取ることはできている。
- ◆ 記述式の問題では、2つの問に答える必要があったが、一つしか解答していない児童が多かった。

(6) 算数の今後の改善点

数と計算

- 問題場面を想像しながら取り組むことに課題があるため、文章問題では、具体的な場面や量感を想像させながら問題に取り組ませる。
- 問題場面を図で表現させる。

図形

- 図形の構成の理解は十分できているが、空間を認識する力を高めるために、子ども自身が体験的に図形にふれる機会を設ける。
- 具体物やICTを用いて、立体を操作する活動を積極的に取り入れていく。

変化と関係

- 「速さ」とはなにか、日常の場面と関連づけながら既習の学習をふりかえる活動を設定する。

データの活用

- 二つの事柄を関連つけて解答することに課題がみられるため、算数科だけでなく、他教科でもデータや資料を読み取る指導を行う。
- 問題を最後までよむことを習慣づけられるよう、指導していく。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1) 学習環境・生活環境について

- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の設問では、「当てはまると答えた児童」は 50%で全国値(39.7%)を上回っている。「どちらかといえば当てはまる」を含めると 90.5%という高い数値で、規則正しい生活を意識して過ごすことができている。
- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の設問では、「4時間以上」と答えた児童は 31%で全国値(17.7%)を大きく上回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問では、「30分未満・全くしない」と答えた児童は 50%で全国値(18.3%)を大きく上回っている。反対に「2時間以上」と答えた児童は 11.9%で全国値(23.5%)を下回っている。
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問では、「30分未満・全くしない」と答えた児童は 78.6%で全国値(58.6%)を大きく上回っている。反対に「2時間以上」と答えた児童は 7.2%で全国値(11.6%)を下回っている。

【家庭と学校が連携して目指す姿】

- ・家庭学習の手引きを参考にし、学校で学習したことをしっかり身につけるための復習をしたり、興味を持ったことを自ら調べたりするなど家庭学習の習慣化を目指す。
- ・ゲームや SNS を長時間利用している児童が多く、家庭学習の時間がとれていない児童が多いので、ゲームや SNS などの使い方について、学校と家庭が協力して改善を図る。

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問では、「当てはまると答えた児童」は 52.4%で昨年に続き国値(48.8%)を上回っている。「どちらかといえば当てはまる」を含めると 94.9%という高い数値で、認めてもらっていると感じている児童は多い。

■「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問では、「当てはまる」と答えた児童は 40.5%で全国値(30.2%)を上回り、昨年度から大きく改善した。相談できると子どもたちが自信をもって言えるような関係を築くことできている。

■「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていますか」の設問では、「当てはまる」と答えた児童は 50%、ど「ちらかといえは当てはまる」を含めると 100%という数値で、教室で細かく見てもらっていると感じている。

■「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が57.1%で、全国値(75.8%)を下回っている。

【今後の取り組み】

・授業や日常の中で、「多様な考え方を知り、自分とは違う意見を聞き合う場」を意識して設定し指導することで、6年間を通して主体的に学びに向かう態度の育成を図っていく。

(2) 教科・学習について

■「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の設問では、「30分より少ない」「全く使っていない」と答えた児童が88.1%で全国値(55.8%)を大きく上回っている。

■「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて・・・」などの7つの設問では、すべての項目で全国値を下回っている。

【今後の取り組み】

・学習へのICT機器の活用が進んでいない。効果的な活用ができるよう、学校として計画的に取り組んでいく。

■「算数の勉強は好きですか」の設問では、「当てはまる」と回答した児童が45.2%で、全国値(34%)を上回っている。

■「算数の授業の内容はよくわかりますか」の設問では、「当てはまる」と回答した児童が73.8%で、全国値(44.9%)を大きく上回っている。

■「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の設問では、「当てはまる」と回答した児童が54.8%で、全国値(47%)を上回っている。

【分析】

・授業内容がよくわかり、算数が好きだと答える児童が増えている。